TruSight One 「高効率・高感度な臨床研究を可能にする **TruSight Oneシーケンスパネル**~ウェット編~」

Dec 5, 2014



© 2012 Illumina, Inc. All rights reserved.

Illumina, illuminaDx, BaseSpace, BeadArray, BeadXpress, cBot, CSPro, DASL, DesignStudio, Eco, GAIIx, Genetic Energy, Genome Analyzer, GenomeStudio, GoldenGate, HiScan, HiSeq, Infinium, iSelect, MiSeq, Nextera, Sentrix, SeqMonitor, Solexa, TruSeq, VeraCode, the pumpkin orange color, and the Genetic Energy streaming bases design are trademarks or registered trademarks of Illumina, Inc. All other brands and names contained herein are the property of their respective owners.



ターゲットリシーケンスと全ゲノムシーケンス

ターゲットシーケンス

全ゲノムシーケンス



TruSight 疾患パネル

疾患パネル	ターゲット 遺伝子	ターゲット 領域	
心筋症	46	0.24 Mb	遺伝的な心筋症の原因同定にフォーカス
自閉症	101	0.33 Mb	自閉症に関連するゲノム的な特徴の解析が可能に
癌	94	0.30 Mb	癌の素因に関係する遺伝子をターゲット
遺伝性疾患	552	2.55 Mb	重篤で劣性の小児発生疾患に関する遺伝子をターゲット
Myeloid	54	0.14 Mb	骨髄性悪性腫瘍における体細胞変異の同定にフォーカス
TruSight One	4813	12 Mb	既知の臨床的表現型に関連する4813遺伝子をターゲット

TruSight疾患パネルに関しましてはイルミナサポートウェビナー 「TruSight疾患パネルで疾患関連遺伝子だけを効率よく低コスト解析」 (2014/5/23)

でご紹介させていただいております





TruSight Oneシーケンスパネル **TruSight Exome** (2,761 genes) Coding regions of **4,813** genes HGMD + OMIM (1,966 genes) **GeneTests.org** (69 genes) TRUSIGHT ONE **Other TruSight** (17 genes) TruSight Exomeに各種データベースの情報を追加





TruSight Oneシーケンスパネル サンプル調製から解析までの一連の工程をサポート



ゲノムサンプル処理からのプロセスをまとめた1つのワークフローで、 操作ミスの低減、コストの削減、高効率の解析を実現

TruSight Oneシーケンスパネル サンプル調製から解析までの一連の工程をサポート

<ライブラリ調製>

- ✓ 50 ng DNAのスタート
- ✓ DNA断片化作業を含む迅速なNexteraライブラリ調製を採用
- ✓ 1.5日以内に終了(ハンズオンタイム5時間)

<シーケンス>

- ✓ MiSeq、NextSeq、HiSeqいずれのプラットフォームにも対応
- ✓ 95%以上の領域で20×以上のカバレッジを実現

<解析>

- ✓ MiSeq Reporterまたは、BaseSpaceを用いることで変異コールまでを自動で実施
- ✓ Variant Studioを用いたアノテーション解析・レポート作成までをサポート

TruSight Oneシーケンスパネル ご使用のシーケンサーに合わせて選べる2つのキット構成



TruSight Oneシーケンスパネル ご使用のシーケンサーに合わせて選べる2つのキット構成

シーケンサー	シーケンス試薬	Samples / run	Read Length
MiSeq	MiSeq Reagent Kit V3	3	150×2
NovtSog 500	NextSeq500 Mid Output	12	150×2
NexiSeq 500	NextSeq500 High Output	36	150×2
HiSeq 2500	HiSeq Rapid Run Mode (1フローセル当り)	36	150×2

**NextSeq、HiSeqでTruSight Oneシーケンスパネルを用いる場合は、別途シーケンス試薬を購入す る必要がある。 TruSight Oneシーケンスパネルには、VariantStudioのライセンスも含まれている。

TruSight Oneシーケンスパネルのプロトコール~ウェット編~





TruSight One シーケンス ワークフロー





TruSight Oneライブラリ調製のワークフロー

ステップ1: Nextera ライブラリステップ 1ステップで断片化およびアダブターとインデックスの付加を実施



参考文献 Rapid, low-input, low-bias construction of shotgun fragment libraries by high-density in vitro transposition. Genome Biology 2010 Dec 8;11(12):R119.

illumina

13

TruSight Oneライブラリ調製のワークフロー

ステップ2: ターゲットDNAの濃縮ステップ

ビオチン化プローブはターゲット領域のハイブリダイズした後、ストレプトアビジンビー ズでキャプチャーを行う





ステップ 1: Nexteraライブラリステップ

- ▶ Input DNAは50 ngを厳守
- ▶ 二本鎖DNA特異的な手法で定量 することを推奨

(Qubit、PicoGreenなど)

O.D. 260/280 = 1.8 – 2.0程度の純度のDNAを推奨





ステップ 1: Nexteraライブラリ ステップ



10 ulの5ng/ulのDNA (50 ng)を96ウェルMIDIプレートに分注し、Tagmentation反応用の試薬を各ウェルに加える (全量50 ul)

試薬	容量
5ng/ul input DNA	10 ul
Tagment DNA Buffer	25 ul
Tagment DNA Enzyme	5 ul
Water	10 ul

▶ MIDIプレートをMicroseal 'B'でシールし、プレートシェーカーで1分間撹拌





プレートシェーカー



ステップ 1: Nexteraライブラリ ステップ

Tagmentation

- MIDIプレートを280xgで1分間遠心ののち、58°CのMicroheating Systemで10分間イン キュベート
- ▶ 15 ulのStop Tagment Buffer (ST)をプレートの各ウェルに分注する。
- MIDIプレートをMicroseal 'B'でシールし、プレートシェーカーで1分間撹拌 (ピペッティング10回程度で代用可)
- ▶ MIDIプレートを280xgで1分間遠心ののち室温で4分間インキュベート

<Best Practice>

- Stop Tagment Bufferは沈殿を生じやすいので、使用 前に完全に溶解していることを確認
- Microseal 'B'はバイオラッド社の型番MSB1001をご
 使用いただくことを推奨
- 58°CのインキュベートのステップはMicroheating
 System (SciGene)の使用を推奨





ステップ 1: Nexteraライブラリ ステップ

Tagmentation

Clean-up

- あらかじめよく撹拌した65 ulのSample Purification Beads (SPB)をプレートの各ウェ ルに分注
- MIDIプレートをMicroseal 'B'でシールし、プレートシェーカーで1分間撹拌 (ピペッティング10回程度で代用可)
- ▶ MIDIプレートを室温で8分間インキュベート
- マグネット・スタンドでビーズを集め、上清を捨て、200 ulの80%エターノルで洗浄する作業を2回繰り返す





ステップ 1: Nexteraライブラリ ステップ

Tagmentation

Clean-up

- MIDIプレートをマグネット・スタンド上に置いたまま室温で10分間風乾し、エタノール をとばす
- ▶ 22.5 ulのResuspension Buffer (RSB)で懸濁
- MIDIプレートをMicroseal 'B'でシールし、プレートシェーカーで1分間撹拌 (ピペッティング10回程度で代用可)
- ▶ MIDIプレートを室温で2分間インキュベートのち、280×gで1分間遠心する。
- ▶ マグネット・スタンドで、2分間静置し、上清を20 ul回収し、新しい96ウェルPCRプレートに回収する

<Best Practice>

- Sample Purification Beadsは使用前に冷蔵庫から出し、室温に戻しておく
- 80%エタノールは要時調製のものを用いる

ステップ 1: Nexteraライブラリ ステップ



- 使用するサンプルの数に合わせて、使用するインデックスの組み合わせを決めておく (詳細はIllumina Experiment Managerの設定で紹介)
- 使用するIndex1、Index2それぞれのインデックスプライマーをTruSeq Index Plate Fixtureに配置する





ステップ 1: Nexteraライブラリ ステップ

^t PCR

▶ 20 ulのサンプルDNAにPCRの試薬を加えていく

試薬	容量
Tagmented DNA	20 ul
Index1 Primer	5 ul
Index2 Primer	5 ul
Nextera Library Amplification Mix	20 ul

- 耐熱シールでプレートをシールし、プレートシェーカーで1分間撹拌 (ピペッティング10回程度で代用可)
- プレートを280×gで1分間遠心の後、PCR装置にプレートをセットし、下記のプログラムを実行する
 - a) ヒートリッドオプションを100°Cに設定
 - b) 72°C for 3 分間
 - c) 98°C for 30 秒間
 - d) 10 cycles of:
 - 98°C for 10 秒間
 - 60°C for 30 秒間
 - 72°C for 30 秒間
 - e) 72°C for 5 分間
 - f) Hold at 10°C
- Safe stopping point

(2~8°Cで2日間まで保存可)

<Best Practice>

 インデックスプライマーのキャップは、コンタミを防ぐ ため、使い捨てになっている。使用後は新しいキャップ でふたをする。



ステップ 1: Nexteraライブラリ ステップ

Tagmentation	Clean-up	1 st PCR	1 st PCR Clean Up
--------------	----------	---------------------	------------------------------

- ▶ PCRプレートをPCR装置より取出し、280 xgで1分間遠心
- ▶ 50 ulのサンプル溶液をプレートより取出し、新しい96 well MIDIプレートに移す
- よく懸濁したSample Purification Beads (SPB)を90 ulを用いて、DNAの精製を実施する (実施手順は、Clean Upのステップと同様)
- 27.5 ulのResuspension Buffer (RSB)で溶出し、上清を25 ul回収し、新しい96ウェル PCRプレートに回収する



ステップ 1: Nexteraライブラリ ステップ

Tagmentation	Clean-up	1 st PCR	1 st PCR Clean Up
--------------	----------	---------------------	------------------------------

- ▶ 回収したサンプルのDNA濃度を、二本鎖特異的な検出が可能な蛍光定量法で測定する
- ▶ Safe stopping point (-15~-25°Cで14日間まで保存可)



Qubit® Fluorometric 蛍光定量 (Life technology) Image from <u>https://www.lifetechnologies.com/order/catalog/product/Q33217</u>

<Best Practice>

サンプルの正確な濃度定量が、次の濃縮ステップの成功のキーポイント、蛍光定量は必ず実施 する



1st Hybridization Biotin probes ・ 各サンプル500 ngずつを、PCRプレートにプーリングしていく。 Table 1 DNA Libraries for Enrichment

Library Pool Complexity	Total DNA Library Mass (ng)	
1-plex	500	
2-plex	1000	
3-plex	1500	(MiSeq用)
4-plex	2000	
5-plex	2500	
6-plex	3000	
7-plex	3500	36 Sample TruSight One Kit
8-plex	4000	(HiSeq、NextSeq用)
9-plex	4500	
10-plex	5000	9 sample TruSight One Kitは3サンプルまで、
11-plex	5500	36 sample TruSight One Kitは12サンプルま
12-plex	6000	ビリノーウングに対応

1st Hybridization

Resuspension Buffer (RSB)を全量が40 ullになるように加える

(全量が40 ulを超えてしまっている場合は、遠心式濃縮機や限外濾過法を用いて濃縮する)

▶ あらかじめ溶解し、混和したHybridization試薬を下記のように各ウェルに加える Reagent Volume (μl)

0	
DNA library sample or library pool from NLS plate	40
Enrichment Hybridization Buffer	50
TruSight One Oligos	10
Total Volume per Sample	100

PCRプレートをMicroseal 'B'でシールし、プレートシェーカーで1分間撹拌

(ピペッティング10回程度で代用可)

- ▶ PCRプレートをPCR装置にセットし、下記のプログラムを実行
 - a) ヒートリッドオプションを100°Cに設定
 - b) 95°C for 10 分間
 - c) 94°Cから、58°Cまで 1分間に2°Cずつ下げる
 - d) 58°Cで90分以上、最長で24時間インキュベート

<Best Practice>

- 次のステップ(First Capture)に進む準備ができるまでは、プレートは58°Cに置いたままにする。



1st Hybridization 1st Capture



- ▶ PCR プレートをPCR装置より回収ののち、280 xgで1分間遠心する
- ▶ サンプル溶液全量を90 well MIDIプレートに移す
- ▶ よく懸濁したStreptavidin Magnetic Beadsを各ウェルに250 ulずつ加える
- MIDIプレートをMicroseal 'B'でシールし、プレートシェーカーで1分間撹拌 (ピペッティング10回程度で代用可)
- ▶ MIDIプレートを25分間室温で静置する
- ▶ MIDIプレートをマグネット・スタンドに置き、2分間、室温で静置する
- ▶ Beadsを吸い込まないように注意しながら、ピペットで上清を取り除く
- マグネット・スタンドからプレートを外す

1st Hybridization 1st

1st Capture

- あらかじめ溶解、混和したEnrichment Wash Solutionを200 ulずつ各ウェルに加える
- Beadがペレット状でなくなるまで、ピペッティングし、さらにその後、10回ピペッ ティングを繰り返す
- ▶ MIDIプレートをMicroseal 'B'でシールする
- あらかじめ50°CにしておいたMicroheating Systemで、50°C、30分間インキュベート する
- ▶ ただちにMIDIプレートをマグネット・スタンドに移し、2分間静置
- ▶ ただちに上清を取り除く
- Enrichment Wash Solutionを200 ulずつ加え、上記のwashの操作 を繰り返す

<Best Practice>

- このステップではMicroheating System(SciGene)を使用することが望ましい ただし、PCR装置でも代用可





1st Hybridization 1st Capture

 1.5 mlマイクロチューブに溶出用の試薬のプレミックスを下記のように用意し、23.5 ul ずつをMIDIプレートの各ウェルに分注する

Reagent	Volume (µl)
Enrichment Elution Buffer 1	28.5
HP3 (2 N NaOH)	1.5
Total Volume per Sample	30

- MIDIプレートをMicroseal 'B'でシールし、プレートシェーカーで2分間撹拌 (ピペッティング10回程度で代用可)
- ▶ MIDIプレートを室温で2分間静置の後、280*xg*で1分間遠心する
- MIDIプレートをマグネット・スタンドで2分間静置の後、21 ulの上清を回収し、新しい PCRプレートに移す
- ▶ 4 ulのElute Target Bufferを各ウェルに加えて、中和する
- PCRプレートをMicroseal 'B'でシールし、プレートシェーカーで1分間撹拌 (ピペッティング10回程度で代用可)
- ▶ PCRプレートを室温で2分間静置の後、280*×g*で1分間遠心する
- ▶ Safe stopping point (-15°C~-25°Cで7日間まで保存可)

ステップ 2: ターゲットDNAの濃縮ステップ

1st Hybridization

1st Capture

2nd Hybri&Capture

 1st Hybridizationと1st Captureのステップを繰り返し実施、ただしはHybridization Stepイン キュベーション時間が異なる

a)ヒートリッドオプションを100°Cに設定 b) 95°C for 10 分間

c) 94°Cから、58°Cまで 1分間に2°Cずつ下げる

d) 58°Cで14.5時間以上、最長で24時間インキュベート



ステップ 2: ターゲットDNAの濃縮ステップ

1st Hybridization 1st Capture 2nd Hybri&Capture Sample Clean Up

- よく懸濁したSample Purification Beads (SPB)を45 ulを用いて、DNAの精製を実施する(実施手順は、Nextera Library StepのPCR Clean Upと同様)
- 27.5 ulのResuspension Buffer (RSB)で溶出し、上清を25 ul回収し、新しい96ウェル PCRプレートに回収する
- ▶ Safe stopping point (-15~-25°Cで7日間まで保存可)







- 60°C for 30 秒間
- 72°C for 30 秒間
- e) 72°C for 5 分間
- f) Hold at 10°C

<Best Practice>

- Nextera Enrichment Amplification Mix & PCR Primer Cocktailは凍結融解を繰り返さないために、小分けにし て冷凍保存することを推奨
- このステップでのPCRのサイクル条件は変更しない

1 st Hybridization	1 st Capture	2 nd Hybri&Capture	Sample Clean Up	2 nd PCR
-------------------------------	-------------------------	-------------------------------	-----------------	---------------------

- ▶ サンプル全量(50 ul)をMIDIプレートに移す
- よく懸濁したSample Purification Beads (SPB)を90 ulを用いて、DNAの精製を実施する(実施手順は、Nextera Library StepのPCR Clean Upと同様)
- 32.5 ulのResuspension Buffer (RSB)で溶出し、上清を30 ul回収し、新しい96ウェル PCRプレートに回収する
- ▶ Safe stopping point (-15~-25℃で7日間まで保存可)



1 st Hybridization	1 st Capture	2 nd Hybri&Capture	Sample Clean Up	2 nd PCR
	L I			k i i i i i i i i i i i i i i i i i i i

- ▶ 回収したサンプルのDNA濃度を、二本鎖特異的な検出が可能な蛍光定量法で測定する
- 650 bp換算で、濃度を計算する例)

 $\frac{15 \text{ ng/ul}}{(660 \text{g/mol} \times 650 \text{bp})} \times 10^{6} = 34.9 \text{ nM}$

▶ qPCRでの測定も可能

Sequencing Library qPCR Quantification Guide

http://support.illumina.com/sequencing/kits.html

<Best Practice>

正確な定量が、適正なクラスター密度を得るために重要、二本鎖特異的な定量方法を必ずご実施ください



Qubit® Fluorometric 蛍光定量 (Life technology) Image from https://www.lifetechnologies.com/order/catalog/product/Q33217



Denature DNA



- ▶ ライブラリーをResuspension Bufferで、1.25 nMに希釈する
- 1.5 mlマイクロチューブに10 ulの1.25 nMライブラリと10 ulの0.1N NaOHを混和し、5 分間インキュベート
- ▶ 980 ulのHT1 Bufferを加えて、ライブラリを希釈・中和(終濃度12.5 pM)
- マイクロチューブを氷上に置いておく

<Best Practice>

0.1 N NaOHは要時調製し、pH13以上のものを使用して
 いただく



Denature DNA Sample Loading

- ▶ MiSeq試薬カートリッジを冷凍庫から取り出して、溶解(水浴での溶解も可)
- 「Load Sample」(17番)のポジションに、希釈・変性済みのDNAライブラリーを 600 ulロードする



Denature DNA Sample Loading Sample Sheet

- ▶ MiSeqのランの実施には、サンプルシートというランの条件を設定したcsvファイルが必要
- Illumina Experiment Managerで作成する

MIllumina Experiment Manager 1.8	23	Sample Sheet例							
Illumina Experiment Manage	er						ap.o		- 12 3
Create Sample Plate	Create Sample Sheet	[Header] IfWileVersion Investigator Name Experiment Name Date Workflow Application Assay Description Chemistry	4 Me My Experiment 2/13/2013 Enrichment Enrichment TruSight Enrichm Myself Default	ent					
		[Manifests] A [Reads] 151 151	TruSight_Cancer	Manifest_A.	ot				
Edit Sample Plate	Edit Sample Sheet	[Settings] IndelRealignment FlagPCRDuplicates VariantFilterQualityCutoff Adapter ExcludeRegionsManifestA	GATK FALSE 30 CTGTCTCTTATAC BRCA2+BRCA1+F	ACATCT					
Folder S	ettings	[Duta] Sample_ID Enrich1 Enrich2 Enrich3 Enrich4	Sample_Name Patient1 Patient2 Patient3 Patient4	Sample_Plate EnrichPlate EnrichPlate EnrichPlate EnrichPlate	A1 A2 A3 A4	ell 17_index_ N701 N702 N704 N706	ID index Sample_Proj TAAGGCGA MyProject CGTACTAG MyProject TCCTGAGC MyProject TAGGCATG MyProject	tet Description Mani EnrichProject A EnrichProject A EnrichProject A EnrichProject A	fest GenomaFolder C.VIIIuminal/MISeq Reporter\Genomes\Homo_sapiens\UCSC\hg19\Sequence\WholeGenomeFASTA C.VIIIuminal/MISeq Reporter\Genomes\Homo_sapiens\UCSC\hg19\Sequence\WholeGenomeFASTA C.VIIIuminal/MISeq Reporter\Genomes\Homo_sapiens\UCSC\hg19\Sequence\WholeGenomeFASTA C.VIIIuminal/MISeq Reporter\Genomes\Homo_sapiens\UCSC\hg19\Sequence\WholeGenomeFASTA



Denature DNA

Sample Loading

Sample Sheet

TruSight Oneの実施のためには、Manifest file (TruSight Oneのターゲット領域を設定したtxt file)をご準備ください

http://support.illumina.com/sequencing/sequencing_kits/trusight_one_kit/downloads.html

″#Some <u>o</u>f the genomic variants, genes, nucleic acid sequences, or genomic regions on this list, and their use in sp∈ [Ĥeader] ReferenceGenome C:¥IIIumina¥MiSeq Reporter¥Genomes¥Homo_sapiens¥UCSC¥hg19¥Sequence¥WholeGenomeFASTA [Regions] Chromosome Amplicon Start Amplicon End Upstream Probe Length Downstream Probe Length Name. AGRN.chr1.9555552.955753 chr1 AGRN.chr1.957580.957842 chr1 955542 955763 0 957570 957852 Û AGRN.chr1.970656.970704 chr1 AGRN.chr1.976044.976260 chr1 970646 976034 970714 0 976270 Û AGRN.chr1.976552.976777 chr1 976542 976787 Û AGRN.chr1.976857.977082 chr1 AGRN.chr1.977335.977542 chr1 AGRN.chr1.978618.978837 chr1 976847 977092 Û 977325 978608 978907 1979192 977552 978847 Û Û AGRN.chr1.978917.979112 chr1 979122 Û 0 979413 AGRN.chr1.979202.979403 chr1 Û Û AGRN.chr1.979488.979637 chr1 AGRN.chr1.979713.979819 chr1 979478 979703 980530 979647 979829 980667 Ň Ň Û AGRN.chr1.980540.980657 chr1 Û AGRN.chr1.980738.980903 chr1 980728 980913 Û AGRN.chr1.981112.981256 chr1 981102 981266 0 981333 981529 981766 AGRN.chr1.981343.981468 chr1 981478 Ô 981655 982125 982347 982844 983077 AGRN.chr1.981539.981645 chr1 Û AGRN.chr1.981776.982115 chr1 0 AGRN.chr1.982199.982337 chr1 AGRN.chr1.982706.982834 chr1 982189 982696 982942 0 0 AGRN.chr1.982952.983067 chr1 0 AGRN.chr1.983155.983275 chr1 983145 983285 Û Û AGRN.chr1.983391.983745 chr1 983381 983755 Ô AGRN.chr1.984246.984439 chr1 984236 984449 0 0 AGRN.chr1.984615.984831 chr1 984605 984841 0 0 AGRN.chr1.984945.985175 chr1 984935 985185 0 0

Manifest fileをダウンロード後、MiSeqの下記のロケーションにファイルを配置してください

D:/Illumina/MiSeq control software/manifest file

Sample Loading Sample Sheet Denature DNA

- IEMのInstrument Selectionで「MiSeq」、MiSeq Application Selectionの画面で、 Categoryに「Targeted Resequencing」Select Applicationに「Enrichment」を選択
- Workflow Parameterでは、次のように選択

🐔 Illumina E	xperiment Manager							
Illumina	a Experiment Ma	nager						
San	Sample Sheet Wizard - Workflow Parameters							
	Enrichment Run Settings	ご使用になるMiSeq試動 カートリッジのID	richment Workflow-Specific Settings					
	Reagent Cartridge Bar	rcode* MS1234567-600v3	🔲 Use Somatic Variant Caller					
1もしくは2を選択、	Sample Prep Kit	TruSight Enrichment	👿 Indel Realignment GATK					
Index1がすべてのサンプル	/ Index Reads	0 0 1 0 2	Flag PCR Duplicates					
でユニークな場合は、			🔲 Run Picard HsMetrics					
1を選択	Experiment Name Investigator Name	test	Variant Quality 30					
	Description		Export to eVCF					
	Date Date	2014/11/30	Ilse Adapter Trimming					
	Cycles Read 1							
	Cycles Read 2	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	Seq 試薬 は					
	* - required field	151サイクル	-Paired endを					
		ランの条件の	として用いる					
Ca	ncel		Back	Next				



ステップ 3: MiSeq ラン セットアップ

Denature DNA Sample Loading Sample Sheet Sample Selectionでは、次のように選択 - 0 X 🔚 Illumina Experiment Manager Illumina Experiment Manager Sample Sheet Wizard - Sample Selection Samples to include in sample sheet * - required field Maximize Well Sample ID* Sample Name Plate Index1 (I7)* I7 Sequence Index2 (I5)* 15 Sequence Nextera Manifest* Sample Project Descrip N701 TAAGGCGA E503 TATCCTCT TruSight-One-Manifest-N705 GGACTCCT E503 TATCOTOT TruSight-One-Manifest-N709 GCTACGCT E504 AGAGTAGA TruSight-One-Manifest-ユニークなサンプルID サンプルごとのIndex ドロップダウンリスト 情報 から、TruSight Oneの Manifest fileを選択 ? Add Blank Row Remove Selected Rows Sample Sheet Status: Valid Reason: Back Finish Cancel



Denature DNA Sample Loading Sample Sheet

インデックスの組み合わせにご注意ください

- サイクルあたり各レーザーに対応するいずれかの塩基が必要 (green = G/T; red = A/C)
- - 少数のサンプルをプーリングする場合は、Technote: Nextera Low Plex Pooling Guideを 参照する

http://res.illumina.com/documents/products%5Ctechnotes%5Ctechnote_nextera_low_plex_p ooling_guidelines.pdf

9 Sample TruSight One Kit (MiSeq用)に付属するインデックスは、いずれの組み合わせでもIEM1.5以下ではワーニングが出るが、問題はない

	Go	ood		Bad					
Index 1		Index 2			Index 1	Index 2			
705	GGACTCCT	503	TATCCTCT	705	GGACTCCT	502	CTCTCTAT		
706	TAGGCATG	503	TATCCTCT	706	TAGGCATG	502	CTCTCTAT		
701	TAAGGCGA	504	AGAGTAGA	701	TAAGGCGA	503	TATCCTCT		
702	CGTACTAG	CTAG 504 AGAGTAGA		702	CGTACTAG	503	TATCCTCT		
	~~~~~~		~~~~~~		~~~~~~		$\sqrt{\sqrt{\sqrt{\sqrt{\sqrt{2}}}}}$ XXXX		
√=signal in both color x=signal missing in one color channel									

Denature DNA Sample Loading Sample Sheet MiSeg run
----------------------------------------------------

- ▶ MiSeq Control Softwareの[Sequence]から、ランにお進みいただく
- ▶ MCSのインターフェイスに添って、操作いただければ簡単にランを開始できます





- MiSeq Reporter上で、各サンプルのそれぞれのサンプルのManifest file上のそれぞれの ターゲット領域に対するカバレッジ、変異を確認できます
- vcf fileをVariant Studioに取り込むことで、簡単に目的の変異を絞り込むことができます
   (詳細はTruSight Oneウェビナー、ドライ編をご参照ください!)

М	iSeq Reporter 2.5.1						2	
	Summary Details Analysis Info	Sample Sheet Logs	Errors			TruSight One Sequ	encing Panel Dataset	
NALYSES	Samples (3) Search # Sample ID Sample Name 1 2 3 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	1 200m + All 300 250 200 50	23535532	47071062	70606593 / chr9	9 <b>4</b> 42124	117677654	アノテーションデータベース
	<targets (40000)="" search<="" th=""><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th></targets>							
	# Name 29687 PHF2.chr9.96339056.9633915	9640 ⁷⁹⁰⁰	9640 ⁷⁹³⁶	96 ⁴⁰⁷⁹⁷²	96408 ⁰⁰⁸	96408 ⁰⁴⁴	96408080	VCFファイルのインボート With and A
	29688 PHF2.chr9.96392252.9639233 29689 PHF2.chr9.96398693.9639880	Variants (1)					Search	
	29690 PHF2.chr9.96407911.9640807	. # Sample ID	Sample Name Chr	Position Score Variant Type	Call Frequency	Depth Filter dbSNP	RefGene Genome	Vioriant Qturlio デフクトッパブクライアント
	29691         PHF2.chr9.96411353.9641149           29692         PHF2.chr9.96415461.9641564           29693         PHF2.chr9.96416695.9641685	4 ¹ –	_ chr9	9040/983 3383 SNP	C->[C/1] 0.49	272 PASS 1596957	34 PHP2 WholeGenome	VariantStudioデスクトップクライアント
	29694 PHF2.chr9.96418216.9641830	•					•	

#### TruSight One その他 資料

▶ TruSight One User Guideなど

http://support.illumina.com/sequencing/sequencing_kits/trusight_one_kit/documentation.h tml

- TruSight One Data Sheetなど <u>http://support.illumina.com/content/dam/illumina-</u> <u>marketing/documents/products/datasheets/datasheet_trusight_one_panel.pdf</u>
- TruSight One 遺伝子一覧 <u>http://products.illumina.com/content/dam/illumina-</u> marketing/documents/products/gene_lists/gene_list_trusight_one.zip
- TruSight One BaseSpace Public data <u>https://basespace.illumina.com/datacentral</u>



# ご清聴ありがとうございました!

# 本日セッション終了後のご質問は、 techsupport@illumina.com または、フリーダイヤル: 0800-111-5011 にお問い合わせください

